

欠けていたものは？

オリジンでは毎年4月になると、全国から社員の人々が清水に集まり、全体会議が行われる。今年も4月18日に静岡市清水区の公共施設「テルサ」にて、第3期の期首にあたっての全体会



議が行われた。32期は御陰様で業績にも恵まれ、前向きな雰囲気でも33期を迎える事ができた。そして業績もさることながら、2年前の31期から開始したオリジンの経営改革と第3次創業への歩みの進展を実感できたことが嬉しい。もとより、第3次創業が実現出来た訳

でも、完成した訳でもないが、おおきなギアチエンジと加速を予感している。2016年2月21日の33周年記念イベントをマイルストーンとする第3次創業のための意識改革と体制作りは、かなりはつきりとしたイメージと社員の人のエネルギーを伴った具体的な運動として進むのではないかと思う。この社員の人の「エネルギーの表出」こそ、会社の本当の改革を

清野吉光氏のコラム 第65回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



あらためてオリジンの第3次創業とは！

- 進める原動力であり、この間の肥後タクシーグループの小集団活動に接して一番感じた「何か」であり、この2年間の経営改革の活動で不足していた「何か」だと思ふ。
- 実は昨年の4月の全体会議では第3次創業に向かい、以下の様な内容が提言されていた。
- 「自分らが第2次創業の時に最も求めた物、もつと言えば心情と言うべきものは「目を輝かせて働ける仕事をしたがって」という事であった。指すべき軸は「社員が目を輝かせて働ける会社、組織を作りたい」と言う事であり、その為の戦略であり、事業計画であり、組織であり、経営改革である。
- 「目を輝かせて働ける」為にはまず
- ①顧客へのお役立ち（顧客価値の創造）が出来なければならず、
 - ②そのためには不断に自己を成長させなければならず、
 - ③そしてそれを個人ではな

- く組織の協働として実現せねばならず、それを首尾よく遂行する連帯感を必要とする。
- ④さらに組織全体の中での自分の位置と価値と役割がわかり、それが適切に評価され
- ⑤その評価が目に見える報酬（役職、給与、賞与）にも目に見えない報酬（やりがい、生きがい）にも反映される。」
- このような観点から、経営改革を推進する組織としての経営企画部がこの一年、様々なスキル評価や評価制度の構築を推進したが、残念ながら、社員の人の「エネルギーの表出」へと結び付ける事ができず、結果的に経営改革が空回りに終わっていた。その一番の原因は何かと自分に問うた時に、やはり経営者自身の本気度の問題でしかないと思に至った。大組織ならいざ知らず、70名程の会社で、改革推進の組織を作ったにも関わらず、それを経営者自らそれを担わず、結果的に経営企画部に丸投げするよう



な改革は残念ながら、魂の入らない空念仏に終わってしまう。オリジンという会社の原点である「第2次創業の志」は、経営者自らがその先頭に立って、その持つ「社員観」「リーダー観」「営業観」そしてその集約としての「経営理念」を伝えずして、第3次創業に継承・深化する事はできない。その極めて単純で当たり前の事を改めて気付かされた。

オリジンのアメーバ

そして社員の人のエネルギー

ギーを表出し、お客様へのソリューションを実現し、なおかつ会社の成長の原動力である社員の人の成長の場でもある小集団（「アメーバ」）を、これからの2年間で集中的に作りあげていくつもりである。またそのプロセスそのものが、社員の人の経営参加と経営人材の育成につながる形で運営したいと思う。おそらくそのようなプロセスなくして、意図する第3次創業の実体の実現は難しいし、単に別の形骸化された形式を作るのみに終わってしまうだろう。逆に首尾よくそのプロセスを準備できれば、オリジンは時代と市場のニーズに適した新しい意識と能力と組織体制（第3次創業）を実現できるだろうし、今後10年、さらに30年を担える経営人材がきつと登場する。そうしてこそ「ITで総合生活移動産業創造を支援する」というオリジンの経営ビジョンを実体化する道が開けると思う。

「人流・観光研究所」



さらに、総合生活移動産業を創造するためには、我々には様々なサポートが必要とされる。また様々なネットワークが必要とされる。最近、「モバイル交通革命」を2000年に東京交通新聞から出版された前加賀市市長の寺前秀一帝京平成大学教授がオリジンの顧問になって下さり、オリジンの中に「人流・観光研究所」を開設され、その所長

に就任された。大学での研究・講義の活動だけでなく、日本の人流・観光の問題について積極的に発信、提言をして下さるようだ。また人流・観光研究会というオープンな研究会を組織され、学会、業界、官界に積極的に呼び掛けて、勉強会の場を持たれる事になっている。今やタクシーという枠組みを超えた人流という世界で、ウーバー（その背後にいるグーグル）など世界的な企業が、その力を駆使して大きな波を起こそうとしている。彼らの本当の意図はどこにあるかは別として、我々も日本社会での人流の新しい枠組みを懸命に研究し、利用者及び社会の移動のニーズにしっかりと応えていく人流・観光産業を、多くの人とのネットワークの中で構築していかねばならないと思う。改めてオリジンの経営理念（社会の深いニーズと結び付き、社会の抱える問題を掘り起こし、解決する自己革新的技術者集団を作る）が、その真偽を試される時代だと思う。

（2014年4月24日記）

タクシー買取専門店だから出来る高価買取
LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!

株式会社ジェット
☎ 03-6454-9896

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-13-10 アイ・タワー 2F 201 FAX: 03-6454-9994 東京都公安委員会 第305561207814号